

学校の教育目標	学びかがやけ西小岩の子 ○考える子 ○やさしい子 ○健康な子
---------	---

国が示す総合的な学習の時間の目標
探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 探究的な学習の課程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。 (2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。 (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

学校の総合的な学習の時間の目標
○地域の人や自然、歴史文化等に関わる探求的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識・技能を身に付けるとともに、地域の特徴やよさ、それらを支える人々の努力や工夫に気付く。 ○地域の人や自然、歴史文化等の中から問いを見出し、仮説を立てたり、情報を集めて整理・分析したり、考えたことをまとめ・表現したりする力を育てる。 ○地域の人や自然、歴史文化についての探求的な学習に主体的・協働的に取り組み、互いのよさを生かしながら、積極的に地域社会に関わろうとする態度を養う。

育てようとする資質や能力及び態度	
知識及び技能	
第3・4学年	第5・6学年
対象との体験的な関わりを通して、課題に気付き、収集した情報を比較・分類するなど、探求の過程に応じた技能を身に付ける。	対象と積極的に関わる中で、課題を見出し、収集した情報を比較・分類関連付けるなど、探求の過程に応じた技能を身に付け、活用して表現する。
思考力、判断力、表現力等	
第3・4学年	第5・6学年
自らの行為について意思決定する。さらに目標を設定し、課題の解決に向けて行動する。	自らの生活の在り方を見直し、実践する。また、自己の将来を考え、夢や希望をもつ。
学びに向かう力、人間性等	
第3・4学年	第5・6学年
課題解決に向けて、意欲的に探究活動に取り組み、自分と異なる意見や考えがあることや、自分と地域とのつながりに気付く。	課題解決に向けて、自分なりの方法を工夫したり他者と協働したりして探究活動に取り組み、学んだことを自分の生活と関連付けて考え、自分に行うことができることを実行しようとする。

内 容	学習対象	学習事項
第3学年	季節の俳句	季節の移り変わりについて感じたことを俳句に表現する。
	世界の国に親しもう	世界の国々について知り、異なる文化について関心をもち、異文化理解を深める。
	情報教育	プログラミングやローマ字入力などを学ぶ。
	西小岩探検隊	地域探検や調べ学習を通して、地域の防災・防犯・交通安全の取り組みについて知り、友達と協力して課題を追求し、まとめ、伝え合う。
	昔ヘタイムスリップ	昔の暮らしや道具について課題を追求し、まとめ、伝え合う。

第4学年	季節の俳句 西小岩環境守り隊 情報教育 人とともに生きる	季節の移り変わりについて感じたことを俳句に表現する。 地域には、豊かな自然環境があることを知るとともに、その環境を保全する人々や組織があることを知り、自分たちとの生活とのつながりがあることを理解する。 プログラミングや情報モラル等について学ぶ。 身の回りにあるユニバーサルデザインに関心をもち、身近な福祉問題の解決の方法について考え、自分たちにできることについて理解を深める。
第5学年	季節の俳句 命をつなぐ 新潟県について調べよう プログラミングを生活に生かそう	季節の移り変わりについて感じたことを俳句に表現する。 米作り、インゲン豆、めだかの世話を通して、生き物を守ることや育てることの難しさを知り、命の大切さについて考える。 雪国の自然や暮らしを知り、寒い気候を生かした生活や産業について学ぶ。 プログラミングや情報モラル等について学ぶ。
第6学年	季節の俳句 夢に向かって進もう 日光について知ろう 卒業に向けて プログラミングを生活に生かそう	季節の移り変わりについて感じたことを俳句に表現する。 様々な職業のよさやそこで働く人々の思いに気付き、自己の将来の夢やそのために今しなければならぬことについて考えるとともに、学んだことをこれからの自己の生き方や生活に繋げていく。 日光の文化財や豊かな自然やに関心をもち、世界遺産や自然の尊さを学ぶ。 西小岩小学校の課題について情報収集を行い、学校のためになる活動をする。 プログラミングや情報モラル等について学ぶ。

学習活動	指導方法	指導体制	学習の評価
・単元は学年で開発し、年間の授業実数を35時間程度とする。 ・学習の振り返りを大事にし、児童が自分の学びを実感できる場を増やす。	・教科との関連的な指導の重視や個に応じた指導の工夫をする。 ・各教科等との関連を重視した指導を行う。	・地域の人や、外部のコーディネーターとの連携を図る。 ・学級間、学年間での実践と情報の交流を行う。	・ポートフォリオを活用した評価の充実を図る。 ・学習カードや振り返りカードによる個人内評価を行う。